

## JFC ネットワーク・スタディツアー2014

2014年8月1日(金)～8日(金)まで7泊8日でスタディツアーを開催しました。今年の参加者は5名で、マニラ・ダバオコースとも参加されました。

### ◆スケジュール◆

- 8月1日(金) PM マニラ着、マリガヤハウス訪問、オリエンテーション
- 8月2日(土) AM 国籍確認訴訟原告団との交流会 at エコパーク  
PM バティス(※)設立25周年記念会に参加
- 8月3日(日) NGO アクセス(ACCE)(注3)を訪問。再定住地区の訪問。
- 8月4日(月) AM 国内線でダバオへ移動  
PM ダバオ着、RGS-COW(※)事務所訪問、オリエンテーション
- 8月5日(火) AM 家庭訪問  
PM ホームステイ先へ移動。夕食、ホームステイ
- 8月6日(水) AM お買いもの  
PM 子どもたちとワークショップ  
ソリダリティナイト、COWの母子とのお別れ会、一緒に夕食
- 8月7日(木) AM ダバオ観光、国内線でマニラへ移動、  
PM マニラ観光
- 8月8日(金) AM 日本へ帰国

(※)バティス (Batis Center for Women) 移住労働者として働いていた女性たちの支援。

(※)RGS-COW(Religious of the Good Shepherd-Center for Overseas) COWはフィリピン人移住労働者の帰国サポートや安易な海外就労に対する啓発活動、人身売買防止活動などを行う団体。JFCネットワークは2007年からCOWで相談を受けたケースも扱っている。

### 参加者たちからの感想をご紹介します♪

#### ◆最も印象に残っているプログラム&その理由

#### ★感想

#### ◆プログラム：パヤタスコミュニティ訪問

(理由) 石川さんの説明やパヤタスコミュニティの役員、スカベンジャー家族のお話しを通じて、海外デカセギ者は最下層の出身者ではないこと、エンターテイナーも就労先が決まるまで待機する余裕のない人たちが、結果として質の悪いプロモーターにつながる可能性が高くなることなど、この間の疑問点のいくつかを確認することができ有益でした。

★ツアーで出会ったJFCたちは、瞳を輝かせながら異口同音に来日し、



父に会う夢を語ってくれました。しかし、父との再会は、必ずしも彼らが思い描くような結果にならないのかもしれませんが。その時、子どもたちはどのように感じ、どのように気持ちを立て直していくことができるのか。そのことがずっと気になっています。

私が話したJFCの母親が付き合っていた男性の年齢（当時）は40代から50代が大半でした。つまり現在は年金受給者です。彼らに父として子を思う気持ちがあったとしても、彼らの家族や子どもとの関係、そして経済状況などから、できることは限られていることでしょう。日本国籍を取得するための支援とは別に、子どもたちの来日にまつわる支援の仕組みを考える必要がありそうです。来日したJFCの子どもたちは、日本国籍をもつがゆえに、既存の外国人支援の仕組みからもれてしまう可能性もあります。

帰国して間もなく、茨城県牛久市で19歳の青年が入管難民法違反（旅券不携帯）で誤認逮捕される事件がありました。「東南アジア風の容貌」の「不審な外国人がいる」との警察への通報がきっかけです。青年は日本人の父とフィリピン人の母との間に生まれたJFCでした。ツアーで出会った子どもたちの顔が浮かびました。青年は昨年6月に来日したのですが、日本語の習熟度は高くなかったようです。職務質問をした警官の疑念を晴らすことができず、通訳を介してようやく誤認逮捕が認められました。青年の日常生活は、もしかしたら日本人との付き合いや接触が少なく、孤立したものであったのかもしれませんが。

ツアーで出会った子どもたちが、この青年のようなトラブルに巻き込まれずにすむにはどうしたらよいか。来日するJFC、そして来日したJFCたちをどのように支えていくのか。JFCをめぐる状況は、法的支援の次の段階に移っているように感じます。（武田里子さん/研究者）

#### ◆プログラム：COWの母子とのワークショップ(ソリダリティナイト)

(理由)ツアーが始まり、私自身が段々とJFC問題について理解し始めていた頃に、JFCとお母さんたちとツアー参加者がグループになってそれぞれ思っていること、聞きたいことを共有して、JFCとお母さんたちは現実を知れたと思うし、私は本人たちの経験や考えを知ることができました。それを踏まえて私が伝えたいことをJFCとお母さんたちに伝えることもできたので、とても印象に残っています。

また、出し物としてJFCとお母さんたちの踊りや歌も披露していただいたり、私も一緒に踊ったりしてとても楽しかったです。

★このツアーで何回かJFCやお母さんたちとワークショップしたり、スタッフの方にお話を伺ったりしてJFC問題について多くの知識を得ることができました。彼ら、彼女たちがどのような経験をして、どう考えているのかを直接聞くことができ、私の考えも変わったし、私も日本の現状を伝えることができ、とても貴重な経験をさせていただきました。

ツアーを通して1番感じたのは、「親子の愛」でした。お母さんも子どもたちもそれぞれが長い間辛く、苦しい思いをしてきていて、自分自身の



ことで大変なはずなのに、お互いのことをとても想っているということが、お話をしているひしひしと伝わってきました。支えあって問題に立ち向かっているということを強く感じました。

今回のツアーで終わりではなく、機会があれば今後のツアーそして他の活動を通して、JFCとお母さんたちを応援していきたいと考えています。JFCとお母さんたち、スタッフの方々、他のツアー参加者のみなさんに感謝の気持ちでいっぱいです。どうもありがとうございました。(高木美佳さん/学生)

◆プログラム：パヤタス訪問、COWでのワークショップ

(理由)パヤタス訪問：パヤタスが運営されている仕組みの一端を理解することができ、ゴミの山がマニラの都市機能とゴミの山に暮らす人の生活の双方に不可欠なものとして組み込まれている事実が理解できた。

COWワークショップ：JFCとその母親たちが日本に行くことについてどのように考えているか、改めて知ることができた。

★参加者の皆さん、ご苦労様でした。尚子さん、クリスティーさん、東京事務所のスタッフの方々、ありがとうございました。

盛りだくさんの内容で、それぞれの企画の中身も濃かったと思います。特にパヤタス訪問やCOWでのワークショップなどでは、じっくり時間を取って現状を見たり話を聞いたりすることができたのがよかったです。やはり話を聞かないとただだけでは分からないことはたくさんあるので、今後も訪問先を増やすよりじっくり時間を取った企画にした方がよいと思います。(近藤博徳さん/弁護士)

◆プログラム：ダバオでの午前中の家庭訪問

(理由)家庭が貧しく、家計を助けるためにと日本に渡航して働き、日本人男性と出会い、子供が出来て結婚もしたが、はじめはうまくいっていた関係が崩れ、連絡がとれなくなる、というケースで、女性は認知や経済支援を求めている。実際にどのような経緯でどのような問題を抱えているのか、また当事者は何を求めているのかがよく理解できた。

★JFCの問題を今まで知らなかった。何の知識もない状態で、たまたまスケジュールが合ったからと、今回のスタディツアーに参加したが、問題を知ることができたことが、最も私にとって有意義であった。

ダバオでのJFCや母親たちとのワークショップの中で、母たちは一言ずつ言いながら、全員が感極まって泣いていた。それぞれが、癒えない傷を抱えているのだと感じた。そして母たちは、自分のことではなく子供のことを考えて認知などを求めている。母たちは、「(子供の父親である日本人男性は、)家を買ってあげる、仕送りを欠かさずする、とかいろんなことを言ってくれたけど、



結局何もしてくれなくなり、言葉だけだった」と言っていた。日本では、経済の豊かさを武器に、男たちが遊ぶための女性をフィリピンから輸入し、遊ぶだけ遊んではいっと捨てる。日本人として恥ずかしいと思った(もちろん誠実な日本の男もいるけれど)。

だからこそ、この国境を越えた人権侵害をこうむったフィリピン人女性と JFC たちを、日本は救済する責務があり、近藤先生のような、この問題に理解のある弁護士がいるから、JFC と母たちは救われている。

また、COW が支援している JFC と母たちは、突然来た私たちツアー参加者をとても丁寧にもてなしてくれた。JFC ネットワークと COW との今まで蓄積された信頼関係や連携があつてこそそのものだろうと感じた。

「国籍をとりたい」と言っていた JFC たちが、国籍をとることに成功したら、将来日本で出会ってみたいものである。(匿名希望)

